

(2/16 3月 7日)

### 文書3保文

## 統合ミサイル防衛を明記

### 米指揮下で「敵基地攻撃」も

政府は年内に改定する国家安保防衛戦略などを文書化し、米国が推進する「統合防空ミサイル防衛(IAMD)」の確立を明記する検討に入りました。他国領域を攻撃する「反撃能力」(敵基地攻撃能力)とミサイルや航空機など、「絶空攻撃」に対処する「総合ミサイル

防空」などを一体化したもの。事実上、米軍指揮下での敵基地攻撃装備体系につながるものです。

米統合参謀本部は、AMDについて、①敵の資源地(攻撃拠点)攻撃②弾道ミサイルや巡航ミサイル、航空機、極超音速兵器など、あらゆる絶空脅威攻撃効果の判定などは

米国に依存せざるのをえないといふられ、事実上、自衛隊が米軍指揮下で敵基地攻撃を行う危険があります。

政府は当初、201

8年の「防衛計画の大綱」改定時に導入を検討しましたが、敵基地攻撃能力の保有が意図されていなかったため、見送りました。その後、自民党は「反撃能力」保有を求めた今

からも、防衛ーなどの「重層的な作戦の統合」だと定義。そのための指揮統制システムの開発を進め、同盟国の参加を促しています。イージス艦や早期警戒機、地上配備レーダーなどの情報を統合し、米軍との情報共有を進めます。ただ、衛星による目標の探知や

年4月の発言で、IAMD導入を提唱。さらに、自民、公明両党が2日・保有を合意した「反撃能力」は、「ミサイル防衛」の補完性を強調しており、IAMDを念頭に置いている可能性もあります。